

至誠通天

藤井 勇治

※至誠通天
誠を尽くせば天が
味方してくれること「長浜の観音展」
東京で再び開催

長浜市、とりわけ北部地域を中心
に守り継がれる観音像と、そこ
に息づく観音文化を紹介する「観
音の里の祈りとくらし展Ⅱ」を東
京藝術大学との共催により、東京・
上野の東京藝術大学大学美術館で
開催しています。2014年の春
に続き2回目です。

市内には約130体を超える観
音像を始めとする仏像が伝わり、
古くは奈良・平安時代に遡ります。
京都や奈良と異なり、大寺社では
なく集落ごとに大切に密やかに守
り継がれているところに大きな特
徴があります。また、地域に宿る
観音文化は毎日の暮らしに根付き
住民の信仰や風土と深く結びつ
いています。

今回は前回の2倍以上となる42
体を展示、期間も9日間延長して
います。観音寺(木之本町黒田)の
重要文化財「伝千手観音立像」や
医王寺(木之本町大見)の重要文化

▲「観音の里の祈りとくらし展Ⅱ」
の会場で

財「十一面観音立像」など15体が
初めて堂外で公開されます。また、
来現寺(弓削町)の「聖観音立像」、
知善院(元浜町)の「十一面観音坐
像」、舎那院(宮前町)の「愛染明
王坐像」などの仏像と古文書、絵
画の計49件が展示されています。
この展覧会では、村で守られて
きた観音様を通じて長浜の信仰文
化や人々の生活を知って頂きたい
と思います。そして、現代日本に
とって一番大切な「慈悲」の精神
に接する安らぎの空間となること
を望んでいます。湖北の温かい人
たちが観音様を守り、観音様も村
の人々を守っています。地域の人
たちが千年を超えて継承してきた
祈りの文化が長浜市の大きな誇り
です。開幕以来、首都圏の大勢の
皆さんには、観音様と対面し祈り
の文化に接して頂き心から感謝し
ています。また、ご協力頂いた全
ての皆さんに改めてお礼申しあげ
ます。

ながはまの文化財

市内には、国や県、市が指定した文化財が
キラ星のごとく光り輝いています。このコ
ーナーでは、451件※ある文化財の中から
代表的なものをシリーズで紹介します。

※平成28年4月1日現在

日吉山王曼荼羅 一幅

指定日 昭和49年3月11日指定

正源寺蔵(余呉町川並)

琵琶湖文化館寄託

正源寺の日吉山王曼荼羅は、大
津坂本比叡山の麓に位置する日吉
神社(現日吉大社)の神々を神像
形式で描いたものです。自然的
確な尊像表現、金箔を用いた細か
な文様や彩色表現など鎌倉時代か
ら南北朝時代の作と考えられま
す。

日本では、平安時代から鎌倉時
代にかけて、外来宗教である仏教
の諸尊と日本で古来より信仰され
てきた神々は、同じものとする
「神仏習合」の考えが浸透し、こ
うした流れの中で制作されたもの
の一つが「山王曼荼羅」です。

山王権現などと呼ばれる日吉



滋賀県指定文化財 絹本着色

タテ151.0cm×ヨコ55.0cm

写真提供：滋賀県立琵琶湖文化館

市立病院通信⁶⁴

お元気ですか

がん相談支援センター
副センター長 新川 君代がんに関する
正しい情報を

市立長浜病院は、平成17年に
湖北圏域における地域がん診療
連携拠点病院に指定され、平
成19年に「がん相談支援セン
ター」を設置しました。

がん相談支援センターとは、
患者さんやご家族あるいは地域
の人からの、がんに関する様々
な相談を受けるところです。国
立がん研究センターの相談員研
修を受けたスタッフが、お話を
伺い、問題を解決するお手伝い
をしています。がん患者さんや
そのご家族は病気の診断や治療
のことに加え、社会的なこと、
金銭的なこと、あるいはご自宅
での生活に関することなど様々
な心配や悩みを抱えています。
必要に応じて院内外の様々な専
門職と連携を図りながら、対応

がん相談支援センター

(68-2354)(直通)

しています。当院に通院してい
ない人でも、どなたでも無料で
ご利用いただけます。個人情報
は厳守しますので安心してご利用
ください。患者さんご家族に
対しては、自らが望まれる治療
を納得して選択するため、がん
に関する正しい情報をお伝えで
きるよう努めています。

さらに、公開教室・出前講座
などを開催し、患者さんやご家
族、一般市民、教育関係職員の
人などに対して、広く情報提供
を行っています。特に働く世代
のがん患者さんは増加傾向にあ
り、がんになっても仕事が続け
るための支援として、昨年度
から社会保険労務士による就
労に関する個別相談会を開催し
ています。

あなたの周りに、誰にも相談
出来ずに悩みを抱えているがん
患者さんやご家族はいません
か。その人らしく、安心して暮
らせるようにお手伝いが出来れ
ばと思います。当センターに関
する詳細は病院ホームページか
院内掲示板をご覧ください。

の上方に、やや大きめに描かれる
7尊が最も有力な上七社で、その
下に中、下の14社の神々が、様々
な姿で表情豊かに描かれていま
す。さらにその下に、天台宗とゆ
かりのある5つの尊像が描かれて
います。中央に描かれるのは弁才
天です。中世の竹生島は天台宗の
下、弁才天信仰の聖地として信仰
を集めていたことから、これは竹
生島の弁才天を描いたものだと考
えられます。

山王曼荼羅には、描かれる形式
や図像が多岐にわたり、様々なパ
リエーションがあることが知られ
ていますが、山王の神輿と竹生島
の8本の腕を持つ弁才天を描く作
例は、正源寺本にしかみられませ
ん。山王曼荼羅の中でも希少な作
例であるとともに、絵画に描かれ
ている図像を読み解くことで、当
時の歴史や信仰状況など多くの情
報を伝えてくれる貴重な文化財で
す。